

今回のテーマは

HPV : ヒトパピローマウイルス Human Papilloma Virus

です。

ヒトパピローマウイルス（以下、HPV）は皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100種類以上のタイプがあります。**子宮頸がん**、**肛門がん**、**膣がん**、**尖圭コンジローマ**など多くの病気の発生に関わっています。

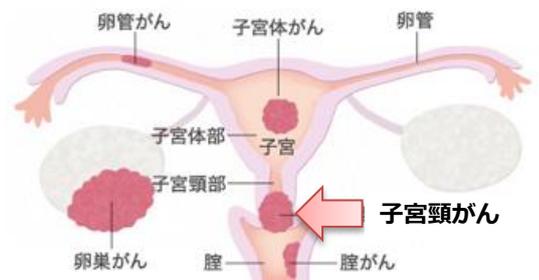
子宮頸がん と HPV

子宮頸がんは子宮の入り口付近にできるがんです。原因は、ほぼ100%が**HPV感染**であることが明らかになっています。年間約1万人（2017年）が罹患し、近年では20代後半から30代の若い女性の罹患率が急増しています。初期の段階（がんの病期：0～I期）で発見・治療ができれば、**がん**と診断されて5年後に生存している人の割合（5年生存率）は95.0%です。しかし、**初期にはほとんど症状がなく、不正出血や**

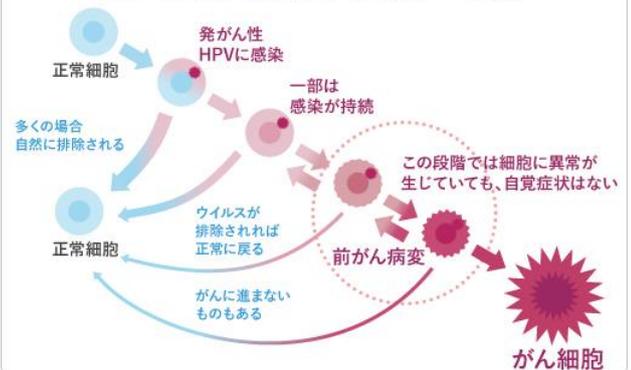
帯下（おりもの）の増加、性交時の出血など気が付いた時には、がんが進行していることが少なくありません。

皮膚または粘膜の接触により感染し、多くの場合、性交渉（口腔性交なども含む）によって感染します。すべての女性の50～80%が一生涯に一度は感染していると報告されています。しかし、HPVに感染しても90%以上は体から自然消失します。また、がんになるまでには数年～十数年かかり、その間に正常な細胞に戻ることが多いため、がんになるのはごくわずかです。**定期的に子宮頸がん検診を受けていれば、がんになる前の状態（前がん病変）を発見し治療することが可能**です。

子宮頸がんの発生部位



発がん性HPV感染とがん細胞への変化



早期発見・治療のため2年に1度は、子宮がん検診を受けましょう。なお、HPVワクチンは感染予防になります

HPV ワクチン

2価と4価ワクチンは16、18型に有効で、9価ワクチンはさらに他の型のHPVも有効です。これらのワクチンにより**子宮頸がん全体の80%程度の予防効果が期待**できます。**定期接種**は2価と4価ワクチンで、対象は小6～高1の女性です。9価ワクチンは**任意接種**で、対象は9歳以上の女性です。また、**肛門がんや尖圭コンジローマの予防を目的として、任意接種で9歳以上の男性も4価ワクチンを摂取**できます。

妊婦と HPV 感染

妊婦がHPVに感染し尖圭コンジローマを発症すると、出産時に産道で赤ちゃんがHPVに感染する可能性があります。その後、のどに疣（イボ）ができる**再発性呼吸器乳頭症（recurrent respiratory papillomatosis）**を発症して、声が枯れたり、呼吸困難になり、疣を取る手術を何十回も繰り返すことがあります。

当センターのオプション検査のご案内

- ①子宮頸部細胞診+②子宮超音波検査：8,800円
- ①②上記の検査+HPV検査（DNA）：14,300円

横浜市立みなと赤十字病院 健診センター

出典：グラクソ・スミスクライン株式会社「子宮頸がん情報サイト」
参考：国立がん研究センター、がん情報サービス「生存率集計」、
日本産科婦人科学会 ホームページ